〈 佐藤昇のストーリー 〉

コロナ対策への
災害対策会議

国への要望活動（文部科学省へ）
教育施設の助成制度の推進を

国への要望活動（総務省へ）
無料公衆無線LANの整備促進を

国への要望活動（内閣府へ）
少子化対策・保育施設の充実を

目黒区議会
第68代 議長

園遊会
（23区の議長を代表して）

「商店会長･父母会長として
多くのご意見をお聞きして」

「3人の子育ての
経験を生かして政策を」

令和4年 **12月4日**

アルゼンチン大使館カップ
青少年の健全育成へ

- 目黒区生まれ　・碑文谷教会幼稚園
- 鷹番小学校（鷹の子サッカー）
  （卒業文集・ぼくのゆめ「人類が安全に住める地球にしたい」）
- 目黒六中（全校生徒大会　議長）
- 日大高校（サッカー部全国大会へ）
- 日大法学部卒業
- アパレル企業入社（家業を継ぐため退社）
- 佐藤酒店（大正14年創業・3代目）
- 清水商店会 会長
- 目黒区商店街連合会 監事
- 第68代 目黒区議会 議長
- 自民党 区議会4期
- 文教子ども・生活福祉・企画総務（各委員長を歴任）
- 玉川大学 父母会役員
- 東京経済大学 父母会 元会長
- ミニバレー協会顧問
- 目黒サッカー協会顧問
- 法人会・青色申告会
- 防災士、救命技能士を取得

【家族】　母・妻・子供3人

【妻プロフィール】
- 油面小学校
- 目黒四中
- 玉川学園 父母会 元会長
- 目黒学園女子高校（多摩大目黒高校）同窓会 元会長

東京マラソン 42km余りを完走
（コロナ感染対策をチェック！）

編集･発行／**佐藤昇事務所**　〒152-0001 東京都目黒区中央町1-3-7　TEL:03-3712-0399　FAX:03-3712-0740　Mail:satou137@yahoo.co.jp　http://satounoboru.com/

討議資料

佐藤昇
区政報告
2022年
12月号

目黒区議会議員
佐藤 昇
さとう　のぼる

自由民主党

子供から高齢者・障害者・すべての区民のために！

国と東京都へ意見書を提出

ごあいさつ

平素より区議会の活動についてご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。
ウクライナ情勢による原油高・物価高騰と円安により、区民の生活にも大きな影響が出ており、経済対策と支援事業が急務となっております。
そして中長期的には、明日生まれてくる子供達の為にも「世代間（どの年齢の方たちにも）の公平性」と「最小の経費で最大の結果を」という視点が重要です。
また、「自助」「共助」「公助」の姿勢は、防災の事だけではなく、様々な福祉や教育においても必要であり、縦割りの行政に捉われない、「区政の再構築」も急務であります。
区政をチェックする議会の機能を果たし、目黒区だけで解決できない課題は、国や東京都に働きかけて、すべての目黒区民皆様の「笑顔と健康」の創出に努めて参ります。

子供から高齢者・障害者まで
みんなで楽しめる

生涯スポーツを推進しています！

〈 令和５年度へ、今後の課題点と提案 〉

1. 「世代間の公平性」と今後の公債費への考え。
2. 妊娠・出産から子育てまでの、切れ目ない支援。
3. 女性の活躍（ヘルスリテラシー・プロコンセプションケア）
4. 認知症・一人暮らしの高齢者への、寄り添った支援。
5. 人権とLGBTQ、SDGsに基づいての政策を。
6. 自転車等の交通安全強化。防犯カメラ設置強化。
7. 緊急事態への対応（大地震・感染症・自然災害）
8. 区有施設・学校施設の更新費（負の財政状況を残さない！）
9. エビデンス（根拠・証拠・正確性）に基づいた政策立案を。
10. 児童相談所等の設置と、国の「こども庁」創設への考え。
11. 環境・ゼロカーボンシティへ。
12. 教育・オンラインでの学びの保障を。

ウクライナ支援募金

令和4年 佐藤 昇の一年 本会議で最多の登壇機会をいただきました。

令和4年 3月9日~17日 佐藤昇の質疑 「 予算特別委員会 」

◎『高齢者・障害者・妊産婦など要配慮者』への災害時避難所を充実せよ！

◎「区民センター建て替え」と「今後の区有施設」は将来の財政（区民負担）を考え進めよ。

◎ オリンピック・パラリンピック大会のレガシーを『世代を超えてスポーツを楽しめる場所づくり』『地域スポーツ』等へ活かせ。

◎ 小中学校の省エネ校舎（太陽光・蓄電池など）に向けた考えと共に、災害時の避難所としての機能強化を図るZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を検討せよ。

◎ 学校を支える人材体制の充実。現場からは「先生が足りない」と多く聞く。しっかりと現場に即した対応をせよ。

◎ 小学校における教科担任制で「授業の質の向上」と「教員の負担軽減」等を進めよ。

◎ 働き方改革の推進・出退勤管理システム・学校徴収金管理システム・タイムマネジメント等を円滑に取り組め。

令和4年 5月25日 本会議・監査委員・挨拶

※質疑などは抜粋しています※

令和4年 6月17日 佐藤昇の本会議一般質問

「異例な事態である！」「学校の先生が足りない！」

❶問：東京都の公立小学校約 50 校で、教員の配置に欠員が生じていた。令和４年４月、年度初めの欠員は異例の事態である。今後も教員の育児休業・病気休職などにより欠員は増加し、より深刻な状況が見込まれる。区は、保護者に教員の働き方改革の説明と、児童・生徒への影響を最小限に留めるよう努めよ。

教育長：「目黒区立学校（園）における働き方改革実行プログラム」を改訂し、さらなる改善に取り組む。校長に人的配置に関する具体的な助言をしたり、教育委員会事務局に在籍する校長経験者を適時派遣したりするなどの支援を講じるとともに、東京都教育委員会と連携し、教員の確保に努める。

「介護職員」の負担軽減

❷問：ICT 技術や補助職員の活用、書式統一化とデジタル化推進により、介護の質向上と職員負担軽減を進めよ。

区長：政府の規制改革推進会議において議論されており、国の動向を注意深く見守っていく。

保育の充実

❸問：保育施策は、区内の地域ごとのさまざまな需要を把握し、エビデンスに基づき政策立案せよ。

区長：保育需要に見合う定員管理を適切に行い、安定した施設運営を進める。

「学校の部活動」への取り組み

❹問：部活動の地域移行は、学校の実態にあった、一過性でない取り組みをせよ。

教育長：他自治体における実践事例の分析や、地域スポーツ団体との連携・協働の在り方等も含め、区長部局と連携を図りながら、慎重に検討を進める。

デジタル教科書

❺問：個別最適な学びと、協働的な学びの一体的充実を図るよう紙とデジタルの長所の組み合わせで授業を進めよ。

教育長：国の動向を注視し、それぞれの良さを生かすよう正式導入に向け検討を進める。

令和4年 6月24日 企画総務・委員長・1号補正予算

令和4年 6月30日 本会議・委員長報告

令和4年 7月27日 本会議・臨時会議

令和4年 9月13日 2号補正予算審議・委員長

令和4年 9月30日・12月6日 本会議・委員長報告

令和4年 9月16日~27日 決算特別委員会 佐藤昇の質疑と区の答弁

❶ 令和4年2月24日、ロシアのウクライナ侵略行為により、電力不足、原油高、物価上昇し、それに伴う電力・資源の高騰があり、日本政府から、大規模な電力ストップ・停電というような方針が示された。また、2018年9月、北海道胆振東部地震（震度7）の時には、町がそっくり停電になり、機能停止状態になってしまました。 緊急の停電や自然災害での停電を想定した対応策と、「停電対応マニュアルの策定」に至急取り組め。

区長・答弁　国の方針と財源の課題をふまえて、しっかり対応していく。

❷ コロナ禍の中でのスポーツ・運動の推進。「小さなお子さんから、お年寄りや体に障害のある方」が、時間や場所に捉われないで、体を動かせる運動やスポーツを、オンラインや動画を使って行い、「区民の健康増進と健康・笑顔」を前進させよ。

文化スポーツ部・答弁　DX の流れ（オンライン・動画等）を、なお一層取り入れていく必要を認識している。時間と場所に束縛されないオンライン形式のスポーツなどを、区の各所管が連携して推進していく。

❸ 区政の重要課題の施策に、「DX の推進による区民サービス向上と業務効率化」をあげている。生活福祉課としてどのように DX を取り入れ進めていくのか。

生活福祉課・答弁　地方公共団体情報システムの標準化に関する法律に基づく対象事務の標準化であり、企画部門と総務部門が中心となり、業務改善を含めた庁舎内の煩雑状態の解消に取り組み、ペーパレス化や事務の効率化を進めていく。

❹ ヤングケアラー（家族の介護・面倒に忙殺し、教育などに支障がある、18歳未満の子供）は、全国的に問題になっている。子供自身や家族に、その自覚がなく相談しないケースが多い。社会的認知度の向上に取り組み、より多くの機会で周知し具体的な対応をせよ。

家庭支援センター所長・答弁　関係機関向けの研修、民生児童委員の研修を実施する。区民へは講演会を実施する。また、区報でも「ヤングケアラーを特集」取り上げ、ホームページ、LINE などで相談先を周知啓発していく。

❺ 災害時の「共助」の観点から。明日何が起こるか分からない災害へ、平日の日中の備えの観点からも、中学生の普通救命講習の実施を充実せよ。

教育政策課・答弁　普通救命講習、応急救護講習を、実施時期や実施学年を各学校で調整し、消防署への要請を含め必要な支援をしていく。

❻ トイレの環境改善については、10年以上前から、洋式化を含め色々な指摘・提案をしてきた。今後は、オールジェンダートイレへの考えを進め、現状できる工夫と改善をせよ。

学校施設計画課・答弁　LGBTQ の子供たちが快適に困ることなくトイレに行くことについては、各学校の状況に合わせて進めていき、学校施設の更新の再には、完全個室型のトイレを整備していく。